

実施日：11月18日（2校時）	
領 域：特別の教科 道徳	
取組名：「あるがままの自分」で この社会に生きていく	
対 象：第6学年	実施場所：教室ほか
ア ねらい ・ ありのままの自分たちで居ようとする主人公たちを通して、人の考え方や生き方は多様であり受容される社会をつくろうとする道徳的心情を育てる。 ・ 差別や偏見に苦しむ人々の思いに寄り添い、誰もが幸せに生きていくために必要な考えをもち実践する態度を育てる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 ○ 「LGBTQ+」、「SOGIE」についての学習 ・ 性的マイノリティーの人々の理解と啓発のために、明石市ジェンダー平等推進室との連携のもと、基本的な理解を促す出前授業や、当事者へのインタビューなどを通して学習を進める。 ・ 性的マイノリティーは性自認や性的指向など幅広くカテゴライズされていることから、一つ一つ丁寧に事柄の解釈をすすめるとともに、これまでの社会の性的区別による偏見や差別を受けてきた事実も学習する。 ○ 本時について ・ 同性婚における社会の実態について焦点化した教材を用いて、当事者の思いに寄り添いながら心情を汲み取る。 ・ 当事者の人々が差別や偏見に悩み苦しんできた過去を知り、これからの多様な社会を形成する人々が「あるがままの生き方」を受け入れ共に暮らしていくことの大切さを理解する。	
ウ 連携先：児童（全校生）、家庭、明石市ジェンダー平等推進室	
エ 連携にむけての取組 ・ 明石市ジェンダー平等推進室と連携を図り、「LGBTQ+」や「SOGIE」についての知識理解に関する授業等を行った。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 本時で使用した読み物教材は、明石市ジェンダー平等推進室の関係者と共同で作成した。文章表記の一つ一つの意味を専門的知識の基で正しく整えることや、「性的指向」に直結した教材にするために必要なキーワード、キーセンテンスに精選・パラグラフの整理をすることなど、性的マイノリティーに関する教材作成をする上で必要なアドバイスを受けることができた。	
カ 評価の方法 ・ 授業中の児童の発言 ・ ふり返り（ワークシート）	
キ 成果 「同性を好きでいること」に対して素直に表明できない人がいることを知り、そのさみしい思いを読み取る中で生き方に苦痛を感じていることが分かった児童が多くいた。また、当事者に対して差別や偏見の目を向ける行為は他者の幸せを奪うことに気付いた児童もいた。こうしたケーススタディを重ねることで、様々な人と暮らす世の中の全体像を積極的に把握し、より良い社会づくりへ貢献できる精神を育てるための一助になることがこの授業を通して分かった。	
ク 課題 恋愛経験がない児童や、結婚をすることについての意味の理解が不十分な児童が、本教材を通して登場人物の心情に迫りきれていなかったことがふり返りから分かった。また、法律上の問題について焦点化してしまった児童への切り返しの発問が不十分であったことから、ねらいにせまる授業展開になれなかったことが課題であった。	